
月下

呼子鳥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

月下

【Nコード】

N2401BA

【作者名】

呼子鳥

【あらすじ】

夜は深まる。星も月も、人も呑み込むほどに。

もう夜になったのか。全く気が付かなかった。少し汗をかいたな。ジャケツトを脱ぐからちょっと待っていてくれ。

見てごらん、息が白いだろう。僕も先週から手袋をつけ始めたんだ。大丈夫、新しいのじゃあないから心配はいらないよ。このジャケツトだってほら、少し色が褪せているだろう。高校のころからずっと使っていたものなんだ。君だってそうだっただろう？

それにしても。いつも見えるのはオリオン座ばかりなのに今日は一段と星が瞬いている。東京の空も昔に比べたらずっと澄んでいるのだろうな。まだ日の出には程遠いだろうし、もっと冷え込むのかな。そうになったらどうしようか。君は平気だったかい。

忙しくて言うのを忘れていたんだが、実はこれ、さっき買ったんだ。嫌だったかい？ 怒っていたならごめんね。でも、君だったぶん、量産品かどうかなんて気にしなかったんだろう？ 体面ばかり繕って、いつも他人を貶める、そんな世間が嫌いだっただろう？ だったら今さら気にすることじゃない。現に君は今、笑顔だったじゃないか。

よし、汗も収まったみたいだし上着を羽織るよ。あまりぐずぐずしていられないな。分かった、最後に一つだけ話をさせてくれ。そんなに長くはならないよ。僕だって寒くて仕方がないんだ。手短にするよ。

僕が最初に君を見たのは、朝の電車の中だった。喻えじゃなくて本当に胸のあたりが、そうだな、内側に引っ張られて収縮する感じがしたんだ。あの時僕は大学生活に絶望していたんだ。だからこそ君に気が向いたのかもしれない。

それから僕は、生まれて初めて目覚まし時計を買ったんだ。いきなりじゃないよ。三、四回君の姿を見て、僕も規則正しくしようと思っただ。それからというものの、僕は君と何度目が合ったことか。

同じ時間の同じ場所で、一体どれくらいの確率なんだろうね。

そこまでは良かったんだ。

何かあったのかい？ 高校で嫌なことがあったのかい？ 何かあったのなら僕に言ってくれば良かったのに。僕と会えば良かったのに！

大丈夫。君が悪いんじゃないんだよね。涙を拭きなよ。悪いのはこの、殺伐とした世の中なんだ。学校ではいじめが横行して誰も助けてくれやしない。口先だけなんだよな、皆揃ってさ。無視を決め込んでも口応えしても、所詮無力なんだ。

だから、もう安心だろ？ 奴らが追ってくることはもうないんだ。死ぬまで奴らは立ち往生さ。もう愉快で仕方がない。君も笑えよ。ハハハ……。

じゃあ、僕もそろそろそっちへ行くよ。ああ、もうすっかり冷たくなってる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2401ba/>

月下

2012年1月6日01時49分発行